

踏み跡 <My Mountains>

御坂	笹子峠から笹子雁ヶ腹摺山	No.260
----	--------------	--------

ユニシス山中湖マラソンの帰り道での登山、今回は中央自動車道の笹子トンネルの上に立つ山「笹子雁ヶ腹摺山（ささごがんがはらすりやま）」。
大菩薩連嶺の南端が御坂山塊にタッチする位置にある。ほかの登山記録でも紹介したが、大菩薩連嶺の南側にはいくつかの雁ヶ腹摺山が存在する。渡り鳥の峠越えの難所を意味するらしい。No.46 で登った雁ヶ腹摺山は五百円札の裏の富士山を撮影した場所として知る人は知る山だが、ほかの牛奥雁ヶ腹摺山も笹子雁ヶ腹摺山も世間を騒がせるようなエピソードがない「ただの山」である。でも、この奥ゆかしい名前だけで充分ではないかと思う。



平成7年10月22日

山中湖の朝は快晴だが富士山は見えず。セブンイレブンで昼食用の食糧を購入して8時に出発。都留市まで国道139号線を走り、鶴鳥屋山と高川山の鞍部を山越えて初狩へ出て20号線へ。旧笹子峠への分岐点の新中橋のたもとに駐車、時刻はちょうど9時。衣装を登山スタイルに着替えて、付近の家の蛇口からいただいた水でタンクを満たして9時半出発。

笹子雁腹摺山へ導く標識に従い山道に入ると、気持ちの良い杉林が始まる。せっかくの快晴が杉林の中では味わえない。斜面をへつるように登っていくうちに伐採跡地に飛び出した。明瞭な道のトレースがしにくいので悩みながら歩いていたら旧甲州街道の笹子峠への道に合流してしまった。高压線に沿って進み、主稜線上の海拔1150m地点に飛び出すつもりだったが、峠からじっくり登ることに変更。自動車道の整備により今や使う人がいなくなってしまった旧道は静かで気持ちが良い。旧笹子トンネル10時34分。立派なトンネルが精悍な面構えで待ち構えており、往事が偲ばれる。(右上写真：旧甲州街道笹子トンネル)



4分ほど暗闇を歩いてトンネルの西側に抜けると、トンネルの出口のすぐ脇に峠への山道があった。15分ほどの登りで笹子峠。標識も何もなく、「これがほんとの笹子峠だよ！」と言ってあげたくなる。

ここから尾根伝いに北上し、海拔1150m地点からゆっくり東にカーブを切りながら尾根上を進んで行く。

笹子雁ヶ腹摺山11時35分。海拔1357.7m三等三角点がある。

登山者は他に一名だけで静寂そのもの。(左写真:頂上の三角点) この一名の登山者は無線交信の最中で、何やら電子音が聞こえるだけ。南アルプス方面と南大菩薩の山々が手に取るように見える。(右写真：大菩薩方面を望む)

足元を見下ろすと笹子の街道筋に並ぶ集落が良く見える。北も南も山に挟まれて、その間を溝を切るように走る国道と鉄道と集落が美しい。昼食を済ませたら写真を撮ろうと思っていたが、何と食事が進むうちにガスが迫ってきてあっという間に見



踏 み 跡 <My Mountains>

えなくなっていました。気温も下がってきたので昼食を早めに切り上げて 12 時に下山開始。

(右写真：笹子雁ヶ腹摺山三角点)

笹子峠 12 時 34 分。トンネルをくぐって、今朝来た道に戻りながら今朝のルートミスの原因を探ってみることにした。答えは簡単に出てしまっていてがっかりした。登山路の途中に一か所だけ小さな分岐点があり、木の枝に巻きつけたビニールテープにボールペンで「雁腹摺山はみぎ 左はおまわり」と書いてあった。

新中橋に帰着は 13 時 52 分。服を着替えて笹子の町に下り、笹子餅と吟醸酒笹一を土産に購入。

笹子トンネル以西の山へ行き始めた頃、帰りの列車の中で車内販売に来る笹子餅を買って食べるのが楽しみだった。蒸気機関車の喘ぐような轟きと長いトンネルの暗闇、スイッチバックの駅などとともに「ササゴモチー」の売り声は、旅の終わりにはなくてはならない一品だった。大月 IC から中央自動車道に入り自宅着は 17 時半。予想以上にスムーズな帰路だった。



以上